

食と緑の

西三河地域レポート'16

—明日の食と緑を育む西三河の農林水産業—

(2015年度版)



平成28年7月

目	次
---	---

I	レポート作成の趣旨	1
II	施策と基本目標の実現への重点的取組事例	2
1	安全で良質な農林水産物の生産と供給の確保	2
	(1) “活かす” あいちの農林水産業	2
	ア 「生産者と消費者の思いを伝える農林水産業」の推進	2
	(2) 意欲ある人が伸びる農業の実現	2
	ア 多様な担い手の育成・確保	2
	イ 農業生産基盤の整備と優良農地の保全	3
	(3) 持続可能な林業の実現	4
	ア 担い手の育成・確保と林業事業体の強化	4
	(4) 良質な水産物の供給力の強化	4
	ア 担い手の育成・確保	4
	イ 漁業生産基盤の整備	4
	(5) 食品の安全・安心の確保	5
	ア 生産・加工・流通段階における取組の推進	5
2	県産農林水産物の適切な消費と利用の促進	5
	(1) 食や農林水産業に対する県民の理解と活動の促進	5
	ア 子どもの頃から身近に農林漁業を体験できる環境づくり	5
	(2) 県産農林水産物の消費と利用の促進	5
	ア 「いいともあいち運動」等による県産農林水産物の消費拡大	5
3	自然災害から守られ、緑と水に恵まれた生活環境の確保	6
	(1) 森林等が有する多面的機能の適切かつ十分な発揮	6
	ア 多面的機能を発揮させる森林・農地・漁場の保全	6
	イ 多面的機能の恩恵を実感できる社会の形成	6
	(2) 災害に強く安全で快適な生活環境の確保と農山漁村の活性化	7
	ア 安全な生活環境の確保	7
	イ 農山漁村の活性化	7
	(3) 環境への配慮と資源の再生・循環利用を図る取組の強化	8
	ア CO2の排出量削減と貯蔵の推進	8
III	生産者と消費者の思いを伝える農林水産業の実践事例	9
IV	「農のある暮らし」の実践事例	11
V	施策体系ごとの目標達成状況	14

I レポート作成の趣旨

愛知県は、「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」に基づき、その理念を実現するための基本計画として、27年度を目標年度とする「食と緑の基本計画2015」を平成23年5月に策定・公表しました。

西三河地域では、「食と緑の基本計画2015」に即し、地域の特色や実情を踏まえた重点的な取組目標と、その達成のための平成27年度までの主な取組事項を定めた実践計画を「食と緑の基本計画2015西三河地域推進プラン」として平成23年6月に策定し、各施策を推進してまいりました。

このレポートは、西三河地域推進プランに掲げる17の施策目標を達成するため、最終年度（平成27年度）に取り組んだ事例を報告するとともに、目標の達成状況を取りまとめたものです。



Ⅱ 施策と基本目標の実現への重点的取組事例

1 安全で良質な農林水産物の生産と供給の確保

(1) “活かす” あいちの農林水産業

ア 「生産者と消費者の思いを伝える農林水産業」の推進

～生産者と消費者の思いが伝わる農林水産業のモデルを育成するために～

農業改良普及課では、食品表示制度や非許可製造業等の届出制度の講義や、起業家の視察研修会を通して、起業活動を支援しました。

岡崎市のみそ加工女性起業グループ「蔵っ工」は、みそをより使いやすくするため、容器や充填機等の検討を重ね、既存の袋入りからカップ容器に変更しました。

また、平成25年10月に六次産業化・地産地消費の総合化事業計画の認定を受けた岡崎市の特定非営利活動法人中部猟踊会では、JAあいち三河の協力のもと、新たな地産地消のメニューとして、田畑を荒らす猪や鹿の肉を使ったソーセージやホットドッグを開発しました。

道の駅藤川宿やJAあいち三河幸田憩の農園で販売されています。



蔵っ工メンバーと新商品カップ入りみそ



猪肉と鹿肉のソーセージ

(2) 意欲ある人が伸びる農業の実現

ア 多様な担い手の育成・確保

～基幹経営体を育成するために～

西尾市では、イチジクの担い手確保対策としてのイチジクスクールの開催を支援し、4名の新規栽培者が確保されました。

農業経営改善のための制度資金借入者への個別指導及び関係機関と連携し制度資金の利用を推進しました。

個別就農相談や就農2年以内の農業者及び若手女性農業者への経営管理能力向上講座、個別指導を実施しました。

農起業支援センターで、新規就農相談50名に農業参入相談を実施しました。

新規就農者の定着・支援のため、経営が不安定な就農直後の岡崎市始め7市町の新規青年就農者17名に対する青年就農給付金（経営開始型）の給付を支援しました。



いちじくスクールの研修風景

イ 農業生産基盤の整備と優良農地の保全

～農用地区域を中心に耕作放棄地を再生するために～

耕作放棄地対策の総合的な推進を図るため、平成27年8月7日に西三河地域耕作放棄地解消推進会議を開催しました。会議には当事務所関係各課及び管内市町の担当者が出席し、資料説明、情報交換等により問題意識の共有化を図りました。

こうした取組みの結果、平成27年度においては14haの耕作放棄地が解消されました。



再生前



再生後

耕作放棄地の再生（岡崎市）

～新たに農地を再整備するために～

定期的に行われる地元役員会において、農地の所有者と農業生産基盤の整備方法について検討を行いました。

経営体育成基盤整備事業により東牧内地区（岡崎市）、渡下地区（同）及び高棚地区（安城市）、農村活性化住環境整備事業により深池地区（西尾市）では、ほ場整備、排水対策特別事業により深池地区（西尾市）では、排水路、排水機場の整備を実施しました。



ほ場の整地状況（安城市 高棚地区）

～維持管理の軽減のための農業水利施設を更新するために～

農業農村多面的機能支払事業等の事業により、地域住民による農業用の用排水路の維持管理活動を支援しました。

かんがい排水事業により中井筋地区及び中井筋依佐美地区（刈谷市）では排水路、村高地区（岡崎市）では用水路、農業水利施設保全対策事業により吉良地区（西尾市）では揚水機場の整備を実施しました。



水路工事状況（刈谷市 中井筋依佐美地区）

(3) 持続可能な林業の実現

ア 担い手の育成・確保と林業事業体の強化

～森林組合の経営安定化に向けて～

森林組合の役員に対して、経営体制の充実強化と事業活動の活性化を図るため、役員向けの基礎講座や木材市況、木材生産現場などの現地研修会等を4回開催しました。

平成27年12月7日に静岡県富士森林組合と長野県根羽村森林組合から講師を招き、林業事業体経営健全化研修会を行いました。

また、林業への新規就労促進のため、農林高校生が森林組合の作業現場を見学・体験できるように支援をしました。



林業事業体経営健全化研修会

(4) 良質な水産物の供給力の強化

ア 担い手の育成・確保

～新規漁業就業者を確保するために～

新規就業者の確保を図るため、漁業就業相談窓口の漁業就業者確保育成センター（水産試験場）との情報交換に努めるとともに、機会あるごとに、青年漁業者育成確保資金等のPRを行いました。

県内漁業地域の中学生を対象に平成27年7月28日に開催された「少年水産教室」の参加者募集と同教室運営に積極的に協力しました。



地引き網体験（少年水産教室）

イ 漁業生産基盤の整備

～漁港を再整備するために～

一色漁港では、水産流通基盤整備事業として、堤防の耐震工事、坂田べか船溜まり工事を行い、また水域環境保全創造事業により泊地の浚渫を実施しました。

また、一色漁港、大浜漁港、西幡豆漁港では、水産物供給基盤機能保全事業により、浮棧橋改修、堤防上面道路や防潮扉修繕を実施しました。

(5) 食品の安全・安心の確保

ア 生産・加工・流通段階における取組の推進

～農産物環境安全推進マニュアル等のGAP手法の導入を増加するために～

かねてからGAP手法の導入を検討してきた西尾市茶業組合が、27年度から新たに取組を開始しました。

また、JAあいち中央碧南露地野菜協議会ニンジン部会及びJA西三河トマト部会では、チェックシートの点検を行いました。その結果に基づき、実施率の低い項目について改善を働きかけました。

管内の3JAで農薬残留確認調査事業を実施し、農産物の残留農薬分析と生産履歴記帳による農薬の適正使用を指導しました。

また、管内514件ある農薬販売所のうち79件について農薬取締法に基づく立入検査を実施し、農薬の適正な販売・使用、保管について指導しました。



茶業組合研修会

2 県産農林水産物の適切な消費と利用の促進

(1) 食や農林水産業に対する県民の理解と活動の促進

ア 子どもの頃から身近に農林漁業を体験できる環境づくり

～農林漁業体験の実施小学校の割合を引き上げるために～

JA西三河が地域の農業者の協力を得て、小学5年生の米作り体験を実施しています。

27年度は、管内の小学校16校を対象に、田植え、案山子づくり、稲刈り、収穫と年間を通して米作り体験を行い、農業に対する理解を深めることができました。

こうした体験学習を進めるためのJAの取組を支援しました。



稲刈りの体験（西尾市立中畑小）

(2) 県産農林水産物の消費と利用の促進

ア 「いいともあいち運動」等による県産農林水産物の消費拡大

～学校給食での地域農産物の活用割合を引き上げるために～

西三河地域食育推進支援会議において、管内の「愛知を食べる学校給食の日」の取組事例や地元産農産物の学校給食への供給状況について情報提供を行いました。

また、平成27年4月19日の「よいきゅうりの日」、平成28年1月23日の「碧南人参の日」に向けた、生産者団体が行う地元小中学校等へのきゅうり、にんじんの贈呈活動を支援し、地元産農産物の学校給食への活用を推進しました。



よいきゅうりの日（西尾市立西尾小）

3 自然災害から守られ、緑と水に恵まれた生活環境の確保

(1) 森林等が有する多面的機能の適切かつ十分な発揮

ア 多面的機能を発揮させる森林・農地・漁場の保全
～間伐の実施により多面的機能を発揮させる森林面積を拡大するために～

森林所有者に造林事業、あいち森と緑づくり事業を始め間伐に関する各種事業等の地元説明会を3回開催しました。

また、森林施業の集約化を図るため、森林経営計画制度の説明会を岡崎市東河原地区で開催し、森林経営計画の作成指導を行いました。



森林経営計画制度の個別説明会

イ 多面的機能の恩恵を実感できる社会の形成

～県民との協働・連携による生物多様性の保全活動の取組組織を増やすために～

新たな取組組織を掘り起こすため、農業団体、土地改良区、自治会などを対象に「農業農村多面的機能支払事業」の説明会などを開催しました。

この事業に取り組んでいる「桜井北水土里保全会（安城市）」では長年放置されていた耕作放棄地の解消として、人海戦術でゴミを片付けながら竹切り作業を実施しました。

耕作放棄地解消後はコスモスや菜の花の植栽により、地域の「憩いの場」となっています。

また、「西尾北部・花と水土里の会（西尾市）」では、農地環境の保全、強化及び地域環境の向上のために、1,500名にのぼる農業者と地域住民が関係した地域住民活動に対し支援と啓発を行いました。

干潟・藻場を保全するための活動組織である「幡豆地区干潟・藻場を保全する会」が実施した干潟の底質改良では、トラクターによる耕うん、アマモ藻場を回復するための種子採取、選別、播種等の保全活動を指導・支援しました。



人海戦術による竹切り作業



アマモ藻場造成のための播種作業

(2) 災害に強く安全で快適な生活環境の確保と農山漁村の活性化

ア 安全な生活環境の確保

～洪水や地震等のリスクから守られる住宅を確保するために～

土地改良関係のイベントや住民説明会等で、農家始め地域住民に対する啓発活動を行いました。

ため池の耐震性調査を129か所実施しました。

たん水防除事業により西尾市の4地区（北浜南部1期地区、藤江地区、荻原地区、前野地区）等で排水機場の整備を実施しました。また、海岸整備事業等により碧南海岸、吉田海岸、西尾海岸、一色・藤江海岸、奥田海岸の堤防や樋門の整備を行いました。



(西尾市 行用排水機場)

～治山施設の整備により山地災害に対する防災機能を高めるために～

森林荒廃地の復旧や山地災害の防止のため、治山施設を13か所、28ha整備し、森林の防災機能の向上を推進しました。

また、保安林の公益的機能の発揮のため、森林の適正な保育（本数調整伐）工事を26ha実施しました。



予防治山事業（谷止工と木製土留工）

イ 農山漁村の活性化

～産地直売所等の交流施設の利用者数を増加させるために～

県ホームページ内の「あいちの都市・農村交流ガイド」に掲載されている既存の地域資源データの内容を更新して、交流施設の利用推進を図りました。

岡崎市額田地域のナス・トマト・ジネンジョ等の栽培支援を行い、地域資源の農産物直売所等における販売に結び付けました。

また、額田地域において、地域の特性を生かした棚田の保全や農業体験に取り組む「じさんじょの会」と、ホテル祭りや山登りイベントを行う「鳥川ホテル保全会」の活動に対しては、指導員といっしょになって取り組み、中山間地域の活性化を図りました。



交流施設（ふれあいドーム岡崎）

(3) 環境への配慮と資源の再生・循環利用を図る取組の強化

ア CO₂の排出量削減と貯蔵の推進

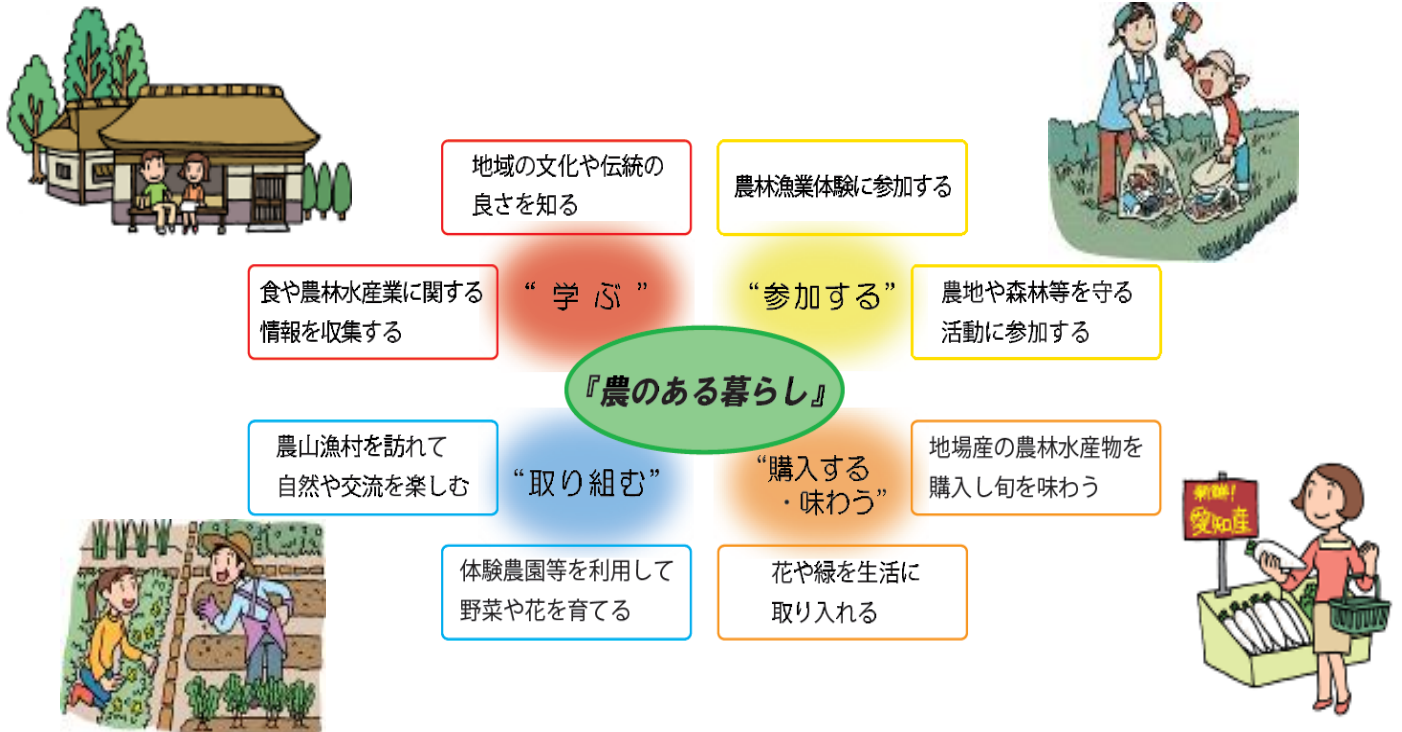
～農業分野におけるCO₂排出量削減のために～

ヒートポンプや多重被覆等の燃油使用料削減施設の導入を支援する燃油価格高騰緊急対策事業に関する説明会を開催するとともに、事業実施に必要な省エネルギー推進に関する計画の策定などの支援を行いました。

鉢物農家等に導入されたヒートポンプについて、その特性を生かし効率的に利用するため、運転状況や温室内の温度の均一性等の利用実態、経済性を調査し、栽培管理の改善を支援するとともに、暖房費の削減効果を確認することができました。



ヒートポンプの利用状況



Ⅲ 生産者と消費者の思いを伝える農林水産業の実践事例

農事組合法人愛知てん茶組合の取り組み

西尾市にある「農事組合法人愛知てん茶組合」では、平成26年度に6次産業化事業で整備したてん茶加工機械が本格稼働し、てん茶の加工販売を開始しました。同組合では、欧米、アジアへの輸出による販路拡大を視野に、てん茶の品質管理を強化するため、組合員のJGAP認証取得や工場のHACCPの取得に向けて取り組みを進めています。



仕上がったてん茶



セントレア国際線での抹茶販売

宮ザキ園の取り組み

国の6次産業化法認定事業者である岡崎市の宮ザキ園（梅村篤志代表）では、主力商品の和紅茶を始め、その加工品を、岡崎市内の道の駅藤川宿、小久井農場、Aコープ、岩津天満宮、岡崎げんき館はんなり、葵の湯「農の匠」、岡崎逸品館、ウッド洋菓子、名古屋市内星が丘テラス+Comer、蒲郡クラシックホテル等で販売しています。

和紅茶は、「三河わ紅茶」として商標登録するとともに、有機JAS認定の取得や、国内外の商談会にも出展するなど、今後は輸出も視野において販路拡大に努めています。



梅村篤志代表



三河わ紅茶等の商品

駒立ぶどうパイの販売開始

岡崎市の道の駅藤川宿では新たな地産地消の取り組みとして、平成27年6月20日（土）から、岡崎市駒立町特産のぶどうを使った菓子「駒立ぶどうパイ」の販売を開始しました。

商品は、1箱10個入りで、税込み648円と手ごろな価格となっており、パッケージデザインは、岡崎市内にキャンパスのある愛知産業大学造形学部デザイン学科の学生が手掛けました。

岡崎市の駒立地区は、県内でも有数のぶどうの産地で、観光ぶどう狩りで有名ですが、道の駅藤川宿では、ジュースやジャム以外の加工品アイテムの拡大は産地のPR、集客にもつながるものと期待しています。



道の駅藤川宿における店頭販売

碧海農業フェスティバルの開催

碧海地区の農業関係5団体（農業経営士、農村生活アドバイザー、青年農業士、4Hクラブ、農村輝きネット）は、碧海農業フェスティバル実行委員会（事務局 農業改良普及課）を組織し、毎年「碧海農業フェスティバル」を開催しています。

本年は、平成27年11月28日（土）に安城市の「でんまあと安城西部」で開催し、各団体が楽しく消費者と交流できるよう工夫を凝らした企画を実施しました。地元農畜産物の加工体験・試食（バター、チンゲンサイ料理、もちつき）及び食育学習（YES農クイズ、野菜の重さ当てクイズ、ガーデニング親子体験、農業のお絵かき講座、農産物展示（農の花飾り））など、大勢の消費者の参加があり盛況でした。



ガーデニング親子体験

農業のお絵かき講座

IV 「農のある暮らし」の実践事例

こども達が石釜ピザ作りを体験

高浜市のNPO法人だいずきっずは、平成27年11月1日（日）、公募で集まった親子13名を対象に、石釜の組み立てとピザづくりの食育体験を行いました。

この体験は、高浜市こども食育ガイドラインの重点取組である「自ら食事をつくる」ことを目標に、①子ども達が自らブロックを組み立てる、②考えて火を起こす、③自ら調理することを実践したものとなっています。コーミ株式会社の協力のもと、県内産トマトを用いたピザソースづくりと併せて、「でんまあと」から調達した県産野菜のトッピングなど、子ども達は、食べ物を自らつくって家族でいっしょに食べることの楽しさを体験しました。



石釜の組み立て



県内産トマトでピザソースづくり

小学生が水産業を体験

西尾市では、食育体験教室として、漁場の現場の見学、釣り体験と、日頃食べている魚介類について知識を広めることを目的に、「マイ竹竿作りとハゼ釣り体験」を開催しました。

子ども達は、自ら作った道具で釣った魚を調理し、食べるところまで体験することができました。また、東幡豆漁協の石川金男組合長からの講話では、多くの人々の働きのおかげで新鮮な魚介類が食べられることも学び、大変充実した食育体験教室となりました。

- ・実施主体 西尾市
- ・実施日 平成27年9月5日（土）
- ・参加者 西尾市内親子20組
- ・場所 西尾市 東幡豆漁業協同組合



マイ竹竿でハゼ釣り体験



釣ったハゼの調理体験

うなぎ食育教室

西三河の身近な水産物であるうなぎと地産地消について学ぶことを目的として、うなぎ食育教室が開催されました。

子ども達は、生きているうなぎに触れたり、クイズを交えながらうなぎの産卵や養殖方法について学びました。また、地元でとれたお米を用いて、うなぎのかば焼きの押し寿司を作りも楽しみ、夏休みの貴重な体験となりました。

- ・実施主体 (株)昭和、碧南水族館、水産試験場内水面漁業研究所、西三河農林水産事務所農政課
- ・実施日 平成27年8月22日(土)
- ・参加者 一般参加の親子40組
- ・場所 碧南市 碧南水族館



うなぎについて学習



押し寿司作り

田んぼのいきもの調査

農業農村多面的機能支払事業の取組組織である「水土里豊かな北浜川西を創る会」では、毎年、農家の方を始め地域の住民や小学生が参加して、地域内の田んぼや水路で生き物調査を実施しています。実際に水路の中に入って、網やタモを使って採取した後は、図鑑等で種類や生態を調べたりして、環境保全の大切さなどを勉強しています。自然の生き物にふれる機会が少なくなった子供たちにとっては貴重な体験となっています。

開催日：平成27年7月14日(火)

開催場所：西尾市新在家町



漁師が先生の出前授業

子供たちに西三河産の水産物への親しみを持ってもらい、消費拡大を図るため、西三河管内の漁業者や水産業普及指導員を「魚食の伝道師」として小学校に派遣しています。

27年度は、ウナギ、アサリ、ノリの漁業者が、西三河の水産物に関する講義を行い、また、生きた水産物と触れ合って楽しく水産業を学びました。

・派遣日及び派遣小学校

平成27年6月29日(月) 西尾市立一色東部小学校(3年生62名)

平成27年10月6日(火) 刈谷市立双葉小学校(5年生111名)

平成27年11月10日(火) 岡崎市立大門小学校(5年生136名)



小中学生が森林の大切さを学ぶ

次代を担う小中学生へ森林に触れる機会を提供し、森林や林業に興味を持ってもらえるよう、額田林業クラブとともに森林学習の取り組みをしています。

講義では、森林の機能や手入れの大切さについて、子ども達は真剣なまなざしで話を聞き、間伐体験教室では、木の香りや間伐後に林内が明るくなる様子をしっかりと体感できたようです。

平成27年6月8日(月) 岡崎市立額田中学校(1年生62名) 座学(森林・林業について)

平成27年6月17日(水) 幸田町立中央小学校(5年生79名) 間伐体験

平成27年6月25日(木) 岡崎市立下山小学校(3,4年生36名) 座学(森林・林業について)

平成27年7月8日(水) 岡崎市立額田中学校(1年生62名) 座学・間伐体験

平成28年1月12日(火) 岡崎市立形埜小学校(5年生11名) 森の健康診断

平成28年1月27日(水) 岡崎市立形埜小学校(5年生11名) 間伐・搬出体験



V 施策体系ごとの目標達成状況

評価

A：目標値（平成27年度）の達成率100%以上
 B：目標値（平成27年度）の達成率80%以上100%未満
 C：目標値（平成27年度）の達成率80%未満

1 安全で良質な農林水産物の生産と供給の確保

(1) “活かす” あいちの農林水産業

ア 「生産者と消費者の思いを伝える農林水産業」の推進

施策目標	目標値 A	実績値 B	達成率% B/A	評価
「生産者と消費者の思いを伝える農林水産業」のモデル事例の育成	5年間で 5事例	8事例	160.0	A

(2) 意欲ある人が伸びる農業の実現

ア 多様な担い手の育成・確保

施策目標	目標値 A	実績値 B	達成率% B/A	評価
新たに基幹経営体の育成 (現況（平成22年度）472経営体)	新たに 64経営体	66 経営体	103.1	A

イ 農業生産基盤の整備と優良農地の保全

施策目標	目標値 A	実績値 B	達成率% B/A	評価
耕作放棄地の再生	86畝	164畝	190.7	A
生産性向上を図る農地の再整備	150畝	152畝	101.3	A
生産性維持のための農業水利施設の更新	1,370畝	498畝	36.4	C

(3) 持続可能な林業の実現

ア 担い手の育成・確保と林業事業体の強化

施策目標	目標値 A	実績値 B	達成率% B/A	評価
中核森林組合の育成	1組合創出	なし	—	C

(4) 良質な水産物の供給力の強化

ア 担い手の育成・確保

施策目標	目標値 A	実績値 B	達成率% B/A	評価
新規漁業就業者の確保	5年間で 70人確保	66人 確保	94.3	B

イ 漁業生産基盤の整備

施策目標	目標値 A	実績値 B	達成率% B/A	評価
漁港の再整備	3か所	3か所	100.0	A

(5) 食品の安全・安心の確保

ア 生産・加工・流通段階における取組の推進

施策目標	目標値 A	実績値 B	達成率% B/A	評価
農産物環境推進マニュアル等のGAP手法の導入数組織・法人等数 (現況(平成22年度)30組織・法人等)	5組織・法人等 増加	13組織・法人等 増加	260.0	A

2 県産農林水産物の適切な消費と利用の促進

(1) 食や農林水産業に対する県民の理解と活動の促進

ア 子どもの頃から身近に農林漁業を体験できる環境づくり

施策目標	目標値 A	実績値 B	達成率% B/A	評価
農林漁業体験学習に取り組む小学校の割合 (現況(平成22年度)78%)	10 ^割 引上げ	4.8 ^割 引上げ	48.0	C

(2) 県産農林水産物の消費と利用の促進

ア 「いいともあいち運動」等による県産農林水産物の消費拡大

施策目標	目標値 A	実績値 B	達成率% B/A	評価
学校給食において地域の産物を活用する割合 (現況(平成22年度)45%)	5 ^割 引上げ	4.3 ^割 引下げ	—	C

3 自然災害から守られ、緑と水に恵まれた生活環境の確保

(1) 森林等が有する多面的機能の適切かつ十分な発揮

ア 多面的機能を発揮させる森林・農地・漁場の保全

施策目標	目標値 A	実績値 B	達成率% B/A	評価
間伐の実施により多面的機能を発揮させる森林面積	3,575 ^{ha} 拡大	1,970 ^{ha} 拡大	55.1	C

イ 多面的機能の恩恵を実感できる社会の形成

施策目標	目標値 A	実績値 B	達成率% B/A	評価
県民との協働・連携による生物多様性の保全活動の取組組織 (現況(平成22年度)17組織)	3組織 増加	4組織 増加	133.3	A

(2) 災害に強く安全で快適な生活環境の確保と農山漁村の活性化

ア 安全な生活環境の確保

施策目標	目標値 A	実績値 B	達成率% B/A	評価
洪水や地震等のリスクから守られる住宅戸数	7,000 戸確保	6,710 戸確保	95.9	B
治山施設の整備により山地災害に対する防災機能の高める面積	200 [㍉] 拡大	248 [㍉] 拡大	124.0	A

イ 農山漁村の活性化

施策目標	目標値 A	実績値 B	達成率% B/A	評価
産地直売所等の交流施設の利用者数 (現況(平成22年度)892万人)	81万人 増加	75万人 増加	92.6	B

(3) 環境への配慮と資源の再生・循環利用を図る取組の強化

ア CO2の排出量削減と貯蔵の推進

施策目標	目標値 A	実績値 B(※)	達成率% B/A	評価
農業分野におけるCO2排出量の削減	2,900 ^ト 削減	965 ^ト 削減	33.3	C

※平成26年度の数値。平成27年度の数値は集計中。



食と緑の西三河地域レポート '16
—明日の食と緑を育む西三河の農林水産業—

平成28年7月発行

愛知県西三河農林水産事務所
岡崎市明大寺本町1-4
電話 0564-23-1211内線 2437 (農政課)
電子メール nishimikawa-nourin@pref.aichi.lg.jp

